

うたいぼん 謡本を読んでみよう！

講師 能楽大倉流小鼓

ひさだ やすこ
久田陽春子

能鑑賞がはじめての方向けの入門講座です。
能の台本を「謡本(うたいぼん)」といいます。
平成30年1月20日(土)に行われる第27回「若手能」大阪公演の演目
「菊慈童(きくじどう)」を題材に、実際の演能の流れにそった解説を聞き
ながら、一部をみんなで声に出して読みます。
文語で書かれているために、聞き取りにくく難しいと思われがちな能を
楽しく理解して、能鑑賞をより充実したものにしてみませんか。

◆日時 平成30(2018)年 **1月13日(土)**
13:00~15:30 (開場 12:30)

- ◆場所 大阪市立中央図書館 5F 中会議室
- ◆定員 60名(当日先着順) 入場無料
- ◆対象 どなたでも

お問い合わせ

大阪市立中央図書館 利用サービス担当

Tel 06-6539-3303



講師プロフィール 久田陽春子（ひさだ やすこ）

能楽師 大倉流小鼓方

公益社団法人 能楽協会 正会員

1973 年生まれ

大倉流 16 世宗家 大倉源次郎および 父 大倉流小鼓方 久田舜一郎に師事。

- ・能「鞍馬天狗」子方、花見にて初舞台。
- ・1985 年 大阪能楽養入会、卒業ののち能「乱」、「石橋」を抜く。
- ・2005 年 能「道成寺」にて大阪舞台芸術新人賞を受賞。
- ・2010 年 自主公演「幸祐・陽春子 能の会」にて、能「安宅」を抜く。

全国でも数少ない公式の舞台に出演する女性能楽師として各地で活動。

また、能楽の普及および伝統芸能である能楽を守り、後世に伝えていくための活動にも力を注いでいる。

夫 寺澤幸祐は観世流シテ方、叔父 久田勘鴉は観世流シテ方、長男（拓海）、長女（杏海）も子方として各地の舞台に出演中。

第 27 回「若手能」^(※) 大阪公演の演目について

菊慈童（きくじどう）【観世流】

中国 魏の文帝の時代。酈縣山（れつけんざん）の麓から薬の水が湧き出たとの報せを受けた帝は、勅使（ワキ・ワキツレ）を派遣する。勅使が山中に入るとそこには一軒の庵があり、中に一人の童子（シテ）が住んでいた。童子は、周の穆王（ぼくおう）に仕えていた「慈童」だと名乗る。驚く勅使に慈童は証拠として王から賜った枕を見せる。枕には法華経の妙文が書き添えられていた。この妙文を菊の葉に書き写したところ、滴る雫が不老不死の霊薬と変じたのであった。慈童はこの薬の酒を讃美し、帝の長寿を願い舞い戯れると、ほろ酔い気分が仙家へと帰ってゆくのであった。

「菊慈童」という能曲名を使うのは、観世流のみ。他の流派では「枕慈童」とされる。

参考『能楽ハンドブック』ほか

（※）若手能とは

大阪・兵庫の40歳以下の若手能楽師が企画・運営し、行っている公演

主催 / (独)日本芸術文化振興会 国立能楽堂 協賛 / (公社)能楽協会 大阪支部

後援 / 大阪府 大阪府教育委員会 大阪市 大阪市教育委員会

関連図書展示

講座の内容に関連した図書展示を行っています。こちらもぜひご覧ください。

【タイトル】能の世界へご案内

【日時】：平成 29 年 12 月 22 日(金)から平成 30 年 1 月 17 日(水)

【場所】：中央図書館 地下 1 階芸術コーナー